

VIVID LETTER

NO.4 2010/1/31

「ヴィヴィレター」

第4号

第1回「脳損傷者ケアリング

コミュニティ学会」開催にあたって	1
VIVID 活動レポート	2
理事コラム	2
VIVID 事業カレンダー	3
ひとこと通信	3
会員の声・お知らせ	4

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)
東京都新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

“VIVID”は高次脳機能障害者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

第1回「脳損傷者ケアリングコミュニティ学会」開催にあたって

代表 長谷川 幹

(桜新町リハビリテーションクリニック院長)



脳損傷者には様々な原因があり、脳損傷者は100万人を越えるといわれ、だれでも突然脳損傷者になる可能性が大きくなっています。

これまで、当事者の会、家族会、通所サービス、作業

所、自主的なグループなど全国的なレベルから小さな地域での活動まで様々に展開されていますが、当事者、家族および医療保健福祉の人々、市民、行政職などそれぞれ様々な悩みや課題を抱えています。

そこで、これらの悩み、課題を様々な立場、職種などを超えた市民を軸にしたコミュニティの場での「知」を集約して21世紀にふさわしい方向性を理論的に、実践的に、運動体として、本学会を設立しました。具体的な活動としては、①コミュニティにおける評価とプログラムの研究部会（脳損傷者を年単位でみる）、②街をデザインする部会のツール部会（腰痛をなくすための福祉機器の利用）・旅部会（障害者が学会に参加する支援のあり方）です。

第1回「島根大会」を高橋会長（エスポワール出雲）のもと4月10、11日に出雲市で開催され、そのイメージは“縁結びの神”にちなんで『えん〜縁、援、円、延、宴』です。

上記部会の報告とともに当事者・家族を中心にしたイベント、すなわち音楽会、朗読、芸術なども発表します。ぜひご参加ください。

開催日時 2010年4月10日(土)
13:00～18:30(開場12:00)

2010年4月11日(日)

9:00～16:30

●イメージ 『縁・援・円・延・宴』

●参加費 一般の方…2,000円

障害当事者と介助の方…一人1,000円

●主なプログラム

[基調講演](4月10日)

高橋 幸男氏 <エスポワール出雲クリニック>

[対談](4月10日)

長谷川 宏氏 <哲学者>・北山 晴一氏 <社会学者>・

中村 俊郎氏 <義肢装具メーカー中村ブレイス社長>

[パネルディスカッション](4月11日)

島根流ケアリング・コミュニティ

[当事者パフォーマンス](4月10日&11日)

参加者募集中!

お問い合わせ&お申込み

大会事務局 0853-25-3949

学会事務局 03-5712-5105

ケースカンファレンスに参加して — 利用者・家族を理解し、支援するために

新宿区とNPO 法人VIVID との協働事業が始まって、10ヶ月が経過しました。ケースカンファレンスは、毎月2回のミニデイサービス事業の際に、ご家族から相談された内容や私たちがデイサービスに取り組む中で、利用者の方をどのように理解して対応したら良いかなどについて、新宿区との毎月の定例打合せ会をする中で協議し、新宿区が主催で実施されるようになりました。

最初に開催されたカンファレンスには、スーパーバイザーとして中部精神保健福祉センターの医師の参加もあり、これまでにご本人と関わりのあった関係機関の皆さんの参加もあって、ご本人のプロフィールを深く理解することができ、同時に、ご本人の成長という緩やかな回復を実感する機会になりました。

二人目のカンファレンスは、ご家族からサービス内容に

ついてのご相談がきっかけとなって、開催されました。ご家族も参加され、関わっている関係者が一堂に会して、協議したことによって、それぞれの行っているサービスや役割が見え、さらには、抱えている課題や問題が明らかになったように思います。カンファレンス後に、新宿区がご本人の担当者を決め、サービスのマネジメントに取り組んで、ご家族も喜んでおられました。

必要に迫られて実施したケースカンファレンスですが、新宿区との協働事業であるからこそ出来る内容のもので、有意義なものと思っています。カンファレンスを実施する時期、目標や課題の設定、効率的で効果的な会議運営をしながら、当事者やご家族にとって、有効で意味のあるカンファレンスにしていきたいと考えています。

(相談担当理事：牛越 千鶴)

「成年後見制度を使いこなそう！」 第2回セミナーを開催 ～ 9月27日

VIVID では、特定非営利活動法人東京高次脳機能障害協議会（以下TKK）と共催で、新宿区協働事業の第2回セミナー（研修）を実施しました。

日時は、2009年9月27日（日）10時30分から、場所は日本青年館（新宿区信濃町）5階大会議室で、80名余の参加者がありました。

全体のテーマは、高次脳機能障害者（支援者）ボランティア養成講座「成年後見制度を使いこなそう！」として、基調講演は大貫正男氏（日本成年後見法学会高次脳機能障害に関する研究委員会副委員長）による、「高次脳機能障害と成年後見制度」～ 制度活用の現状と今後の課題～の後、生方克之氏（神奈川リハビリテーション病院医療福祉総合相談室長）による「成年後見制度活用のポイント」と題した講演がありました。

また、田中眞知子氏（東京都心身障害者福祉センター相

談支援係長）をコーディネータに、「当事者の権利を守るために」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストには、体験報告を中心に木嶋岳生氏（新宿区社会福祉協議会新宿区成年後見センター主任）、田中晃氏（障害者総合福祉施設アガベセンター総合相談室長）、味田村正行氏（世田谷区市民後見人）、当事者ご家族の方が出席しました。

参加された方々からは、「成年後見制度について知りたかったので、これをきっかけに勉強を重ねていきたい」「様々な立場のパネリストの話をより身近に聞くことができて良かった」「上手に活用する、当事者のご家族も安心して利用しようと思えるよう理解が深まって欲しい」「後見人になるといっても知識や応用力が必要であり、被後見人やその周辺の人たちの信頼を得られるような人間性も要するということが分かった」などの意見がありました。

理事 コラム

障害者政策が政治に翻弄されている。高次脳機能障害者を『障害者自立支援法（以後自立支援法）』の対象として明確化すること等が盛り込まれた『自立支援法改正案』が、一昨年3月に国会に提出されたものの、昨年7月21日の衆議院の解散により、1度も審議されることもなく廃案となった。また、8月30日の総選挙により政権交代を実現させた民主党は、マニフェストの中で、『『自立支援法』を廃止して、障害者福祉制度を抜本的に見直す。』と謳っている。しかし、政権交代後の臨時国会では、法案が提出されるどころか、この問題はほとんど議論のテーマとして上がってこなかった。『自立支援法』には、利用者負担の問題、障害程度区分の問題等、改正が

必要な部分もある。しかし、高次脳機能障害者が明確に障害者として位置づけられていない為に、サービスが受けられず、不自由を感じておられる方は全国に沢山いる。こうした問題は、一時も早く解決されなければならない。それが国民の命と生活を守る政治の一番の仕事である。長妻昭厚生労働大臣も就任直後に『自立支援法』の廃止を明言したが、廃止後の新しい制度の内容と、その成立までのスケジュールが見えてこない。内閣には、障害者福祉に明るい山井和則厚生労働大臣政務官がいる。民主党の「国民の生活が第一」というスローガンが、掛け声倒れにならないことを期待している。

(佐藤 淳)

VIVID 事業カレンダー

活動実績

※なんでも相談（電話）毎週木曜日

- 8月** 1日 第4回運営会議・ミニデイスタッフ会議
5日 新宿区障害者福祉課との打合せ
8・22日 ミニデイサービス
19日 新宿区相談窓口連絡会
- 9月** 5日 第5回運営会議
NPO 法人メイアイヘルプユー 10周年事業参加
9日 ミニデイスタッフ会議
12・26日 オレンジクラブ/ミニデイサービス
16日 新宿区障害者福祉課との打合せ
25日 草の根市民基金・ぐらん助成金団体交流会
27日 セミナー「成年後見制度をつかいこなそう！」TKK と共催
- 10月** 1日 ミニデイスタッフ会議
3日 第6回運営会議
10・24日 ミニデイサービス
14日 新宿区協働事業評価のためのヒヤリング
20日 新宿区関係者カンファレンス
21日 新宿区相談窓口連絡会
28日 新宿区自立支援ネットワーク会議
- 11月** 4日 TKK 家族相談交流会（都身障センター）
6日 ミニデイスタッフ会議
7日 第7回運営会議
7日 NPO 法人ひと・まち社 10周年記念事業参加
11日 新宿区障害者福祉課との打合せ
14・28日 オレンジクラブ/ミニデイサービス

- 17日 東京都仕事センター訪問
18日 新宿区障害者福祉課長と懇談
25日 東京都ボランティア・市民活動センター訪問
- 12月** 5日 第8回運営会議
6日 TKK セミナー「見たこと・聞いたこと・言いたいこと！」スウェーデンの脳損傷福祉事業視察報告会
9日 新宿区障害者福祉課との打合せ
12・26日 ミニデイサービス
16日 新宿区相談窓口連絡会
26日 厚労省に TKK 要望書提出
- 1月** 9・23日 ミニデイサービス/オレンジクラブ
13日 新宿区障害者福祉課との打合せ
13日 TKK 家族相談交流会（都身障センター）
13日～ 相談支援員研修受講
16日 第9回運営会議・ミニデイスタッフ会議
31日 ヴィヴィレター第4号発行

今後の主な予定

- 2月** 6日 第10回運営会議・ミニデイスタッフ会議
7日 第3回セミナー開催
「高次脳機能障害のある方との有効なコミュニケーションのとり方」
10日 新宿区障害福祉課との打合せ
11日 在宅生活実態調査事例検討会
13・27日 ミニデイサービス
- 3月** 6日 第11回運営会議・ミニデイスタッフ会議
10日 新宿区障害者福祉課との打合せ
6・27日 オレンジクラブ/ミニデイサービス

ひとこと通信

皆様の投稿をお待ちしています

♠ あれは、描きたいから、描いたまで。
いろいろ聞かれると、困るのだな。
今描いているのは、ただ線の乱舞。私の絵を見るような人にとってみれば紙一面に線を描くのは大変に思われるであろう。しかし、前に見たことのある人にとって見れば。“また・・・”
そーんなことは、な・い・か？好きなものを、描こう。
(新宿区在住：太田慎佑)



写真は、昨年、夏から秋口にかけて、太田慎佑さんが

描いた絵が展示されていた新宿花園神社近くの飲食店内です。夏頃、ご自分で描いた数点の絵を持参し、オープン間もない店の方と直接交渉し展示が実現しました。

♠ 自分の気持ちに素直になろう

私がてんかん発作をはじめて起こしたのは小学1年生の時で、その頃は1日に何回も大きな発作を起こしていました。てんかん発作は1人1人症状が異なるため、解りにくいのですが、まずは家族がその事実を認めてほしいと思います。最初はお互い辛いかもしれませんが、障害を認めることができたときにはじめて状況が大きく改善されると思います。私の親がてんかんを特別視せず私を育ててくれたことは、私にとっては幸せであったと思います。

私はこの体質になったお陰で、障害者を特別視しなくなりました。実はとても優れた所を持っている人も多いのです。どうぞてんかんの人やそのほかの障害者をこれまでとは違った目線で見てみてください。

この原稿を読んでくださった人が1人でも「これから自分の気持ちにもっと素直に生きよう。」と思って下さると嬉しいです。
(世田谷区在住：大塚麻美)

会員の声

設立当初は10名だった会員も、2009年12月末現在では、個人会員65名、賛助会員26名、計91名になりました。地域も東京、神奈川、千葉、埼玉等首都圏から、北海道、青森、宮城、そして宮崎県に広がっています。

今回宮崎市にお住まいの個人会員の方から、次のような声が寄せられましたので紹介します。

私は今から15年前に脳動静脈奇形(AVM)という先天性疾患による脳内出血で倒れ、手術・リハビリを経て社会復帰を果たしました。

当時は高次脳機能障害という言葉も存在せず、見当識や記憶障害には随分悩まされましたが、自分なりにいろいろ工夫しながら少しずつ回復してきました。

自分の経験から重要だと思ったことは、

1. 栄養条件を整える。
2. 毎日体を動かす(体操・ウォーキング)
3. 読み書き計算等で脳を鍛える

の3点です。

大事なのは、「毎日根気強く着実に続けていく」ことだと思います。

「見えない障害」は周囲の理解が得づらく大変なことも多いでしょうが、支援の輪も徐々に広がりつつあります。諦めずに、少しずつ、確実に進んでいくことが重要だと思います。(宮崎市在住：大山 奨)

VIVIDからのお願い

VIVIDでは、私たちの活動趣旨に賛同し、会員、賛助会員、寄付者になっていただける方を募集しています。また、VIVIDの活動につきましては、当広報紙のほか、ホームページもぜひご覧ください。毎月更新しています。アドレスは次の通りです。

<http://www.vivid.or.jp>

会員	65名	(2009年12月末現在の 会員の状況)
賛助会員	26名	
寄付者	15名	

年会費

会 員	個人	5,000円	団体	10,000円
賛助会員	個人	5,000円	団体	10,000円
寄 付	金額に規定はありません			

当広報紙「VIVID LETTER」(ヴィヴィレター)をお読みになった感想、活動にたいするご要望、ご質問等お寄せください。「ひとこと通信」への投稿もお待ちしております。

TEL・FAX 03-5849-4831

お知らせ

新宿区協働事業 高次脳機能障害者の生活サポート事業
高次脳機能障害者支援セミナー

高次脳機能障害のある方との 有効なコミュニケーションの取り方

受講対象者:高次脳機能障害があると思われる方の支援に

携わっているヘルパー、ケアマネジャー、相談員など30人程度

コミュニケーションが困難なのは失語だけではなく、言いたいことがまとまらない、言われていることが理解できない、さっき聞いたこと・さっき言ったことを忘れてしまう、等々の様々な脳の損傷を起因とする後遺症・高次脳機能障害によることが考えられます。

高齢者も含めたサービスの現場で出会うコミュニケーションが難しい方への、アプローチの仕方、コミュニケーションの取り方を学ぶ講座です。

ひろさね まゆみ

講師: 廣 實 真弓さん

国立精神・神経センター病院言語聴覚士、
東京都機能障害専門的
リハビリテーション充実のための検討委員会委員

2010年 2月7日(日)13:30~16:30

13:00~受付(資料代500円)

13:30~講義 ・高次脳機能障害とは・コミュニケーションについて
・コミュニケーションスキルなど

15:15~実技(ロールプレイ)

場所:新宿けやき園(1F) 地域交流スペース

社会福祉法人邦友会(新宿区百人町 4-5-1)

編集後記

前回のヴィヴィレターを発行してから半年が経ちました。早いものです。「高次脳機能障害」も言葉としては、少しずつ浸透してきたように感じています。ヴィヴィの活動も会員、賛助会員、協力者の方々のお力添えで続けることができ、来年度も継続の見通しをもつことができました。

相談事業につきましては、6月から専用電話による相談を始め、4月からの相談を含めると57件ありました。さらに工夫が必要と考えています。

また、ミニデイ事業は、毎月2回ですが、2月は当事者・家族の発表会を予定しています。現在、当事者の方々はギター、キーボード、打楽器、歌など各自が得意なことを、無理なく、楽しい会になるよう練習しています。この他、絵の展示、ティータイム用のお菓子なども提供する予定です。寒さ厳しい毎日ですが、とても温かい気持ちになります。(あ)